

第8回 志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会の総括

1. 審議の内容

平成26年10月16日に開催した第8回志津見ダム・尾原ダムモニタリング委員会において、以下の内容について審議を行った。

○対象事業

志津見ダム、尾原ダム

○審議内容

1) 第7回委員会での指摘と対応

2) 志津見ダム

- ・平成25年度調査結果の報告
- ・黒っぽい水、フラッシュ放流時の調査結果、平成26年度のアオコの発生状況の報告
- ・モニタリング最終報告書案の報告（総合評価、フォローアップ調査計画）

3) 尾原ダム

- ・平成25年度調査結果の報告
- ・平成26年度のアオコの発生状況の報告

2. 審議の結果

事業者から志津見ダム・尾原ダムにおける平成25年度の調査結果及び、志津見ダムにおける総合評価、フォローアップ調査計画等について説明を受け、審議を行った。

○審議結果

審議結果は以下のとおりである。

1) 第7回委員会での指摘と対応

第7回委員会での指摘への対応については了承する。

2) 志津見ダム

(1)平成25年度調査結果の報告

- ・事業者報告の平成25年度の調査結果については了承する。
- ・角井川で硝酸態窒素が高い。流域の放牧地における処理汚泥からのアンモニア態窒素の酸化などが要因と考えられることから、今後の調査でも十分に留意すること。
- ・魚類相の変化が確認されている。生息環境の変化が伺えることから、今後の調査では魚種別に変化の傾向を整理・検討すること。

(2)黒っぽい水、フラッシュ放流時の調査結果、平成26年度のアオコの発生状況の報告

- ・「黒っぽい水」の現象は昨年と同様に確認されなかった。ただし、近隣の住民は心配しているので引き続き対応しておくこと。
- ・フラッシュ放流については、特に減水区間に注目して、引き続き効果の確認に努めること。
- ・アオコについては、現時点では大発生していないものの、栄養塩レベルは低くはないので、気象条件によっては発生する可能性があることから、今後も十分に注視すること。

(3) モニタリング最終報告書案の報告（総合評価、フォローアップ調査計画）

① 総合評価

- ・ 堆砂測量については、データが蓄積した段階で、必要に応じて測量方法・算出方法も含めた改善を検討すること。
- ・ カワウによるアユの食害が懸念されるため、カワウの生息状況についても今後注視すること。
- ・ 今後はブラックバスとともにブルーギルの生息拡大に注視すること。
- ・ 下流物理環境の調査については、今後も適宜実施すること。

② フォローアップ調査計画

- ・ 植物調査の留意点としてバイカモの生育確認についても加えること。

③ モニタリング委員会意見書

- ・ モニタリング委員会の意見書を中国地方整備局に提出した。

3) 尾原ダム

(1) 平成25年度調査結果の報告

- ・ 貯水池ダムサイト地点の底層DOが低く、その期間も長い。地形の確認や電気伝導度についても今後行ってほしい。
- ・ 島村橋の魚類の傾向について、湛水前後で必ずしもオイカワとヌマチチブが優占しているわけではないので、表現を再確認すること。
- ・ DOの自動監視結果についても今後記載すること。

(2) 平成26年度のアオコの発生状況の報告

- ・ 特になし。

(以上)